

開発教育～地球市民をめざして～



		安藤 紀子 山形県立寒河江高等学校 地歴公民科	
教科	世界史 A 6時間	対象	普通科1学年 40名

I 実践の目的

本校は間もなく創立100周年を迎える地域の伝統校であり私の母校でもあります。進学校としての実績と部活動の活躍でも知られ文武両道・質実剛健をモットーとしている学校です。近隣市町から入学する生徒が多く、祖父母の代から本校の卒業生であるという筋金入りの寒河江高校生も少なくありません。

近年の生徒は、学習と部活動だけでなくボランティア活動にも熱心に取り組んでおり、特に東日本大震災以降は定期的に被災地を訪問し活動を続けています。弱者や他人を思いやる優しさと行動力を持った生徒が多いことを頼もしく思います。その一方で、世界のニュースや時事には疎く、国際的な問題や課題についてはどこか他人事のような印象を持っている生徒が多いことを憂慮していました。

今回の実践を通して国際社会に広く目を向けて世界の人々について知り、課題と解決策について考え、行動に移すことができる生徒の育成をめざして授業を展開しました。また、本校の位置する寒河江・西村山地域は果樹や花卉、米の生産が盛んであり農業従事者も多いことから、農業が主な産業であるパラグアイとの類似点や相違点を考えさせることで、はるか遠くの南米パラグアイをより身近に捉えさせることを意識しました。最後に、私が今回の研修で最も関心のあった日系社会については、実際に現地で見聞きした内容を教材として用いることでより具体的に南米移民の歴史や背景及び現状について理解させ、その過程において日本と諸外国との係わりを大きな視点から考え、地球市民としての自覚を持たせることを目的として実践しました。

II 授業の構成

時間	テーマ	ねらい
1 (6月11日)	貧困の悪循環を断ち切ろう	最低限度の生活が保障されない貧困の構造と原因を探り、その解決に向けて何ができるかを考える。
2 (7月9日)	パーム油のはなし	パーム油を通して問題の構造と私たちの消費行動とのつながりを理解し何ができるかを考える。
3 (7月15日)	パラグアイの人にもっと野菜を食べてもらおう	パラグアイの基礎情報（位置、人口、産業など）理解。野菜摂取量が少ない現状の問題点と解決策を考える。

時間	テーマ	ねらい
4 (8月26日)	パラグアイ帰国報告会	現地で収集した伝統工芸品や食品などの紹介。 写真を紹介しフォトリディングを通しての理解。
5 (11月12日)	パラグアイの日系社会	パラグアイ移民の歴史と現状を理解する。 ロールプレイングを通して日系人について理解を深める。
6 (12月16日)	開発教育のまとめ ～行動する～	開発教育のまとめ。「行動する」ことを考える。 仮想募金を通して行動に移す方法を考える。

Ⅲ 授業の詳細

1 時間目 テーマ「貧困の悪循環を断ち切ろう」

〈導入〉

教師海外派遣研修に参加することになった経緯を説明。

JICA について説明。開発途上国に様々な援助活動を実施している。(図1)

〈展開〉

★ワークシート「もしも地球に暮らす人が100人だとしたら…」(図2)を配布して記入させる。

予想を書かせた後に、正解と実際の数を発表し私たちの暮らしとはまったく異なる環境や状況下で生活せざるを得ない人々がいる現状を知る。

共通するキーワードとして「貧困」を考える。

★グループ活動「貧困の輪」

「貧困」にかかわるカードのセットを配布する。(図3)

「貧困」から始まる「負の連鎖」を考えながら、カードを模造紙に貼る作業をさせる。

次に、負の連鎖を断ち切る「支援カード」(図4)をグループに1枚ずつ配布する。

「支援カード」を負の連鎖のどこに投入すればよいかを考え、カードを模造紙に貼る。(図5)

★各グループは、貧困をなくすための自分たちの考えや意見を発表する。(図6)

〈整理〉

開発途上国の現状と貧困の原因を知り、自分たちにできること意識して行動しよう。



図1



図2



図3



図 4



図 5



図 6

2 時間目 テーマ「パーム油のはなし」

〈導入〉

私が持参したいくつかの品物を提示し、共通することは何か考えさせる。

- ・カレールー ・カップラーメン ・スナック菓子 ・アイスクリーム ・口紅 ・石鹸
- 「油」を使用している点に気付かせる。

〈展開〉

★「パーム油について考えよう」

様々な食品や日用品に「植物油脂」が使用されており、そのほとんどが輸入である。中でも「パーム油」の使用が多く、約 8 割が食用に使われている。「植物性」は「石油系」よりも「環境にやさしい」というイメージが定着している。日本人 1 人当たり年間 4.5kg のパーム油を消費している。主にマレーシアからパーム油を輸入している。

★グループ活動 ロールプレイング

【設定】マレーシア A 地区の森林では、政府と開発企業の話し合いによって油ヤシ農園の開発が計画されている。開発が予定されている土地には、先住民族の二つの村があり森が含まれている。今日、この開発計画に対して関係者による話し合いの場がもたれることになった。

【関係者】

- 賛成派 マレーシア政府、農園開発企業、洗剤メーカー勤務、先住民族の村の村長
- ×反対派 先住民族の村の村長、環境保護 NGO

【話し合い】

ロールプレイカードを配布し、各グループで話し合いをする。(図 1 と 2)

話し合いの結果（開発賛成か反対か）を話し合いの内容とあわせて発表する。

※話し合いの結果：7 グループ中 賛成 3 グループ、反対 4 グループ



図 1



図 2

賛成派の意見の主なもの：移住すればよい。開発すれば豊かになれる。

反対派の意見の主なもの：環境破壊につながる。先住民の土地である。

〈整理〉

開発途上国の問題とわたしたちの生活は密接に係わっていることを知る。

今後、商品を選択する際には原材料の「パーム油」を意識して見よう。

〈生徒の感想〉

「自分たちの生活が誰かの犠牲の上に成り立っているかもしれないと考えることができた。

これからパーム油に気をつけていきたい。」

「ロールプレイングを通して、はじめに自分の意見があっても他の人の意見を聞いているといういろいろ考えさせられて、多様な意見を取り入れるのは難しいと実感できた。」

「環境破壊と開発の問題はお金やその土地に住んでいる人たちの問題もからんでくるので、簡単には答えが出せなかった。またこういう勉強をしてみたい。」

「(ロールプレイングで) 村長としてがんばって闘ったが負けてしまって残念でした。」

3 時間目 テーマ「パラグアイの人に野菜をもっと食べてもらおう」

〈導入〉

パラグアイについていくつかの質問をする。

発問「首都はどこですか?」、「何語を話すのかな?」、「通貨単位は?」、「移動に何時間かかるかな?」

〈展開〉

★プリント (図1) を用いてパラグアイについて基礎知識を得る。

(首都、面積、人口、言語、民族、宗教、出生率、乳児死亡率、平均寿命)

いずれの項目についても日本のデータをあわせて提示し、パラグアイと比較させる。

「乳児死亡率」と「平均寿命」について、日本との違いが顕著である。

理由を考えさせる。→生徒の考えを聞く。(生徒の回答：治安が悪いから。栄養状態が悪いから。)

★写真の提示「アサード」(図2) と「マテ茶」(図3)

アサードはパラグアイの名物料理であり、パラグアイ人は肉類の消費が多い割に野菜の消費が少ない。

マテ茶は南米で広く飲まれている飲み物で、食物繊維が豊富なことから「飲む野菜」とも言われている。

★グループ活動「ブレインストーミング」

パラグアイではマテ茶をよく飲むが野菜摂取が少なく、このことが平均寿命や健康に悪影響を及ぼしているのかもしれないと仮定し、野菜摂取を増やすためにどんなことができるか考えさせる。

付箋紙を配布し、個人の意見を模造紙に貼っていく。

出された意見をまとまりごとにグループ分けをする。

★各グループの意見を発表する。

⇒「野菜の種を送る」、「野菜の栽培を教える」、「野菜料理を教える」、「健康にいいことを教える」など

イ。裕福そうだ。

「カテウラ音楽団」：普通の楽器ではない。ゴミをリサイクルしている。子どもが大勢いる。

「大型スーパー」：意外とたくさん野菜や果物がある。日本食がある。肉が多く、魚が少ない。

付箋紙の貼られたそれぞれのグループの写真を回収し、付箋紙の内容と写真の内容（正解）を比較しながら解説していく。

★パラグアイで撮影した動画を視聴する。(図3)



図2

- ・「NIHON GAKKO」の歓迎セレモニー・・・日本語のあいさつ、合唱、ヨサコイ披露など
- ・「伝統芸能・工芸品」・・・ダンスパラグアージャ、ニャンドウトティ、アルパ演奏など



図3

〈整理〉

都市部と農村部では経済格差がある。(住居、街並み、未舗装の道路、校舎や制服など) 多くの日系人が暮らし、日系社会を築いている。

5 時間目 テーマ「パラグアイの日系社会」

〈導入〉

パラグアイの日系人社会の歴史と現状について学ぶ。(図1)

入植当初は移民が大変な苦勞をして広大な土地を開拓してきたこと。

その後、大豆や小麦栽培を導入したことにより、日系人がパラグアイの農業発展に貢献したこと。

「大豆」がパラグアイの重要輸出農産物となりパラグアイの経済発展にも貢献していること。

その歴史がパラグアイ国民の今の日系人社会への高い信頼と評価へとつながっていること。



図1

〈展開〉

★ロールプレイングをする。(図2)

「イグアス移住地に暮らす日系人家族の決断」

日系3世の大君はこのままパラグアイで大豆農家として生きるのか、それとも憧れの日本の大学に進むべきかについて、家族の意見を聞きながら考える。

役割は日系一世の祖父母、日系二世の両親、日系三世の大君と妹の六人。

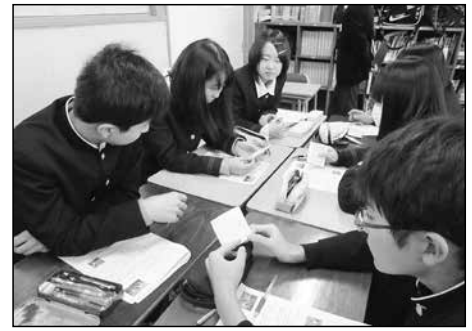


図2

★グループで議論をした後、各グループの大君は進路を決断し発表する。

〈結果〉

パラグアイで農業を続けると決めたグループは3グループ。・・・A

日本の大学に進学すると決めたグループは4グループ。・・・B

Aの理由「自分の家族はパラグアイにいる。自分の家族やこれまで祖父母と両親が大事にしてきた畑を守りたいから」、「必ず日本のいい大学に行けるとは限らないから」、「農業を継いで家族を助けていくことで日本に行かなくても楽しく生活していけるから」

Bの理由「日本の大学で農業について学び、パラグアイの家族の生活を楽にさせてあげたいから」「一度日本を見てみたい。大豆栽培を更に発展させる方法を学べるかもしれないから」「農業はつまらない。日本での生活の方が楽しそうだから」

★感想記入「パラグアイの日系人社会について」「ロールプレイングを行ってみて」

〈整理〉

パラグアイの今後の課題について考える。

- 「就職先」：日系人社会では職業選択の幅は決して広くはないこと。多くは農業従事者だが、子どもが後継者を目指すとは限らないこと。
- 「高齢化」：移民一世、二世の世代は高齢化が進んでいる。デイサービスなどの介護福祉サービスなども整備されつつあるが、十分ではない。
- 「日本語教育」：日系人社会では日本語の教育をコミュニティ内や家庭内で行ってきたが、日本語よりもスペイン語に力を入れるべきと考える家庭も増えてきている現状があり、美しい日本語の継承が憂慮されること。

〈生徒の感想〉

「パラグアイに住んでいる日本人としての利点と難しい点があることがわかった」

「日系人ならではの悩みがあることを実感しわかった。結論を出すことが難しかった」

6 時間目 テーマ「まとめ～仮想募金～」

〈導入〉

「くらべてみよう、日本と世界」・・・プリントを参考に日本と世界を比較する。(図1)

- ・5歳まで生きられない子どもの数、安全な飲み水を得られない割合、一日1ドル以下で暮らす割合など

〈展開〉

★開発教育のまとめ

開発教育とは「知る」、「考える」、「行動する」こと。

○発問・・・「どんなことができる？」

生徒の意見：エコバッグ、マイはし、ウォームビズ、クールビズ、ペットボトルのキャップ回収など

○発問・・・「どんなことをしている人がいる？」

生徒の意見：国境なき医師団、青年海外協力隊、ユニセフ、UNHCR、WFP など

★仮想募金をしよう

生徒の中から3名を選出し、それぞれユニセフ、UNHCR、WFPの代表者となってもらう。

各団体の活動を紹介するカードを読み上げ、自分の団体への募金を呼びかける。

生徒には千円と書かれたカードを配布し、代表者の説明を聞いた後で募金を行う。(図2、図3)

★データでみる、国際協力のいま (図4)

問：「先進国の中で日本はどのくらい援助をしている？」→正解：世界第5位

問：「日本の援助は日本人が働いて得たお金のどのくらいの割合？」→正解：0.19%

問：「日本にある国際協力に参加している団体の数は？」→正解：7,613団体

★わたしたちの募金でできること (図4)

各団体がホームページ等で公開している募金でできることを紹介する。

(例) WFPでは、五千円の募金で子ども1人に1年間の給食を与えられます。など

〈整理〉

「行動する」ことの大切さを理解する。

これまでの授業をふりかえり感想を書く。

〈生徒の感想〉

「日本はとても豊かな国なのに援助額が少ないことに驚きました。今回学んだことをこれからの生活に活かしていきます。」「日本にはあまり実感のない世界の問題(子ども、難民、飢餓)を知りました。私も身近なことから一つずつ行動していこうと思いました。」「世界には自分と同じように教育を受けたりごはんを食べられない人がたくさんいて、そんな人たちを援助するためにたくさんの方が活動をしていることがわかった。」



図1



図2



図3



図4

IV 実践の成果

【生徒の成果】

実践当初の生徒の印象は、世界のニュースや時事に疎く国際的な問題や課題についてはどこか他人事のような態度が見られましたが、実践を重ねるにつれて「日本と世界のちがい」について興味を深めていきました。特に世界の貧困や食糧問題、学校に通えない子どもたちなどの話題については、心を痛めながらも真剣にその解決に向けた議論を交わすことができました。中でも印象的だったのが、「教師になる」という夢を国際問題の解決のための方法として挙げてくれた生徒がいたことです。生徒の回答の大半は「募金をする」や「資源を大事に使う」というものでしたが、彼は「いつか自分も世界中を旅して、この目で見た世界の現実を子どもたちに伝える仕事をしたい」と語りました。「そうすることで少しでも困っている人を助けたい」とも。私たち教師ができることは時間的にも物理的にも限られていますが、こうして自分の体験や実践を生徒へ授業の形で伝えることで、一人でも多くの生徒の心とやる気に火を灯し、やがて温かい援助の手が世界中に広がるための広報活動を今後も継続していきたいと思います。特に近年、お互いの文化や宗教観の相違から痛ましい紛争や事件が多発している世界情勢の中で、これからの未来を生きていく高校生には日本だけに目を向けた暮らしや自国の繁栄のみを優先する生き方はできないのだということを深く印象付けることができたと思います。今後の彼らの行動の中でどのような変容が起きるのかをとっても楽しみにしています。

【自身の成果】

「新しい学び」

教師として採用されて以来、私のモットーは学び続ける教師でありたいということと、新鮮味を失わないということです。今回の研修では、またとない学びの機会を得ることができたことを大変うれしく思います。南米の文化に触れ、日系移民の歴史と現状について理解を深めることができました。担当教科が「地理歴史」なので折に触れてこの経験を生徒に伝えることもできます。今後の教師人生の強みができました。

「貴重な経験」

また、勤務校にとどまらず、地元の小学校でも児童を対象にパラグアイについてのお話し会を渡航前と渡航後の2回実施することができました。自分の子ども（小2と小4）を前にして「先生」として話をする体験は後にも先にも今回だけでしょう。小学生向けのプリントを作成したり話し方も工夫するよい経験となりました（次ページ参照）。今回の研修をきっかけにラジオ出演（FMやまがた「カラフルパーソン」）をさせていただいたこととJICAパラグアイ事務所だより（平成26年9月号）に寄稿させていただいたこともよい経験となりました。

「望めば叶う」

振り返ってみれば身近なところに「日系移民」はあったのだと今更ながら感心しています。というのは、80年代後半、歌謡界ではブラジル出身の日系人歌手が活躍していました。当時の私は「見た目は日本人だけどちょっと日本語が変だな。『日系人』と『日本人』は何が違うのだろう。」と思っていました。それ以上深く調べることがないまま時が過ぎ、やがてNHKでブラジル移民を題材としたドラマが放映されると、その内容に強い興味と感動を覚えました。

その時から日系移民について知りたいと思うようになりました。折しも参加した講演会でパラグアイでのシニアボランティア経験者に出会い、南米への憧れは高まるばかりのところへ教師海外研修の案内が届きました。長年の想いを経てやっと夢が叶いました。

〈小学校での実践〉



25日(木)、寒河江高校の安藤紀子先生から、パラグアイで研修してきたことの報告会がありました。7月、パラグアイの国歌や言葉についてお話を聞きました。子どもたちは未知の国だったパラグアイが少し身近になった時間でした。そして、今回は、安藤先生がパラグアイで見たり聞いたりして研修してきたことを、子どもたちにたくさん教えてくださいました。

まず、パラグアイのトイレトペーパーを取り出しました。とてもごまごましていて、日本のものは柔らかさが全く違います。わりばしでかき割らせても溶けることもなく残ってしまいます。パラグアイでは、トイレトペーパーは便器に流さないことを聞き、みんなびっくりしていました。(便器の所にゴミ箱がありそこに捨てるそうです)

続いて、写真を使って3つの小学校の様子を紹介していただきました。

1つは、日本人居住地の中にある「日本語学校」です。公立の小学校は午前中で終わるので、午後からここで日本語を学んでいるということでした。同じ国語の教科書を使っている写真がありました。

2つは、私立の「ニホン・カウコク」です。現地の子どもたちが日本の文化を学んでいる学校でした。日本の歌や踊り、折り紙などを学んでいました。

3つは、パラグアイの公立の小学校です。ここで、7月に2年生がかいた「将来の夢」の絵を子どもたちに見てもらったそうです。言葉は分らないけれど、みんながかいた絵をすごく楽しんでくれたと教えてもらいました。その小学校の子どもたちの「サッカー選手」は、男の子が「サッカー選手」で、女の子は「カウガール」(牛つがい)ということも聞きました。

最後に、安藤先生がこんなことをお話してくださいました。パラグアイには、学校に通っていない子ども、小中学校を卒業していない子どもが多い、お金がないので、家の手伝いで忙しいからということでした。わたしたちは、「学校に通えるのは、幸せなこと」を知ってほしいと話してくださいました。現地での写真や楽しいお話で、子どもたちはわくわくしながらの報告会になりました。その中でも、こうやって学校で学べる幸せを子どもたちにメッセージとして伝えてくださいました。

安藤先生、貴重な時間を作っていたいただき、ありがとうございました。

レッツ！トライ

4年 No.41 H.26.10.9

学校に通えるのは、幸せなこと！ 今、目の前のごとを一生懸命がんばろう

9月25日(木) 安藤先生より、パラグアイの3つの学校や地域の様子について教えていただきました。義務教育は6歳から15歳。午前7時から11時まで、給食、清掃はなく、体育・音楽・図工・道徳がない学校生活。義務教育ではあるけれども、学校に通っていない子ども、卒業しない子どもも結構いるとのことでした。その大きな要因は貧困、住んでいる地域によっては、ゴミとして捨てられている物も売って生活しているという実態も教えていただきました。

毎日学校に通い、きちんとした勉強ができる幸せ。いつも同じ生活をしているとは分からないことも、他の地域と比べることで知ることもある。当たり前のことを当たり前にできる幸せを学ぶことができた、とても貴重な時間でした。

ぼくは、お母さんの話でパラグアイのことびっくりしたことは、学校に売店があることでした。休み時間におかしなものをポロポロ買われることがうらやましかったです。もう一つあります。勝ちますし人たちのくらしがみのある山から遠くまで歩いてきてフリーマーケットでお金にしてやりくりしていることを聞いてぼくはびっくりしました。ありがとうございました。(安藤 心)

ぼくは、どこにもトイレトペーパーは流すのだと思っていましたが、パラグアイは流さず、ゴミ箱に捨てるのがびっくりしました。さらに、日本語学校というものがあっても知ることができました。ぼくは、パラグアイも日本の学校と違って、算数・国語・理科・社会・体育があると思っていけれど、理科・社会・体育がないということにびっくりしました。ありがとうございました。

安藤先生からパラグアイのことを教えてもらいました。日本とちがうことは、トイレトペーパーが水の中に入れてもくれないと知りました。学校が始まる前から11時に終わるから、パラグアイはとていいなあと思いました。パラグアイの子と友達になれるのが意外だったのでびっくりしました。



平成26年7月22日

2先生のみなさんへ

パラグアイについて

寒河江高校 教諭 安藤紀子

- パラグアイのばしょ

わたしたちがずんでいる日本からとてもおとところあります。

パラグアイは、日本から見てちきゅうのはんだいがわにあります。

南米大陸というところあります。

飛行機で40時間かかります。

サッカーが人気のスポーツだよ！
- パラグアイのこつき

「おもて」と「うら」があるよ！
- パラグアイのきせつ、時間

パラグアイは、日本とちようどはんたいのきせつと時間です。

パラグアイ	日本
きせつ	なつ
じかん	あさ
- パラグアイのあいさつ

パラグアイでは、スペイン語をはなします。

「こんにちは」・・・「フエナス タールデス」

「さようなら」・・・「アディオス」

「ありがとう」・・・「グラシアス」

「ともだち」・・・「アミーゴ」

オーラ、アミーゴ！

高等学校



平成26年7月22日

4年生のみなさんへ

パラグアイについての質問！いくつかわかるかな？

寒河江高校 教諭 安藤紀子

(1) パラグアイと日本の距離はどれくらい離れているのかな？(直線距離で)

1. 10,000 km 2. 14,000 km 3. 18,000 km

(2) パラグアイまでどうやって行くのかな？

1. 自動車 2. 船 3. 飛行機 4. 新幹線 5. ロケット

(3) パラグアイまで何時間かかるかな？

() で移動した場合、

1. 20時間 2. 30時間 3. 40時間

(4) ちなみに、徒歩(時速4km)で一秒も休まずに歩き続けると・・・

1. 50日間 2. 180日間 3. 365日間

(5) パラグアイのあいさつ「グラスアス」の意味は？

1. 「ありがとう」 2. 「いただきます」 3. 「語りたい」

正解した数

問

全問正解で
パラグアイマスター！

V 課題

生徒は投げかけられた問題や疑問について、いつも真剣に考えてくれました。教員が授業や教材を工夫し、学ぶ機会を用意し、きっかけさえ与えれば生徒は自分で課題を見つけて世界に目を向けてくれました。

私自身の国際理解や国際貢献についての学びを深め、さらに授業の内容を精選し改善させていきます。そして、これからも継続して開発教育を授業の中で実践していきたいと思ひます。

関連する学習指導要領の内容と文言

世界史 A

1 目標

近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 内容

(3) 地球社会と日本

地球規模で一体化した構造をもつ現代社会の特質と展開過程を理解させ、人類の課題について歴史的観点から考察させる。その際、世界の動向と日本のかかわりに着目させる。

ア 急変する人類社会

科学技術の発達、企業や国家の巨大化、公教育の普及と国民統合、国際的な移民の増加、マスメディアの発達、社会の大衆化と政治や文化の変容などを理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの社会の変化について、人類史的視野から考察させる。

オ 持続可能な社会への展望

現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。

●出典・参考図書

- ・「学校に行きたい 国際協力とわたしたち」（独立行政法人 国際協力機構）
- ・「開発途上国で教育経験を生かして活躍する日本の先生たち」（文部科学省、JICA）
- ・「世界の食料」（JICA 地球ひろば 独立行政法人 国際協力機構）
- ・「いのち、輝け！途上国の健康を守るために」
(JICA 地球ひろば 独立行政法人 国際協力機構)
- ・「どうなってるの？世界と日本 わたしたちの日常から途上国とのつながりを学ぼう」
(JICA)
- ・「開発教育実践ハンドブック [改訂版]」（特定非営利活動法人 開発教育協会）
- ・「国際理解教育実践資料集～世界を知ろう！考えよう！～」(JICA 地球ひろば)
- ・「遙かなる地球の裏側に夢を馳せた人々ー南米パラグアイ在住日系移住者の声ー」
(編集代表 仙道 富士郎)